

## 社会自立を目指した自閉症教育の実践について

有澤直人

(東京都江戸川区立二之江第三小学校教諭)

こんにちは。そろそろおやつ時間なんですけれども。お昼の後で、私もさっき客席で聞いていたら大分眠くなったんですけれども、少しリラックスしてお話を聞いていただきたいというふうに思います。

きょうは朝からずっと英語で話を聞いていて、何かこう日本語が新鮮に感じるんじゃないかなと、そういうふうに思うんですけれども。私もきのうからショブラー先生とエッケンルード先生にお会いして、ずっと英語でしかコミュニケーションができないような状況に置かれていて、いろいろなことを考えたんですけれども、日本は新しい指導要領で国際化して国際人、国際化に対応できる子どもを育てよう、というようなことを言っていますけれども、国際人って、自分がなれないのに、教師が国際人じゃないのにどうやって国際人という子どもを育てるのかな、というのをすごくきのう疑問に感じました。テレビで、うちの先生は駅前留学していますなんて言って、NOVAに通っている先生が英語を教えているなんていうのをやっていますけれども、あれは国際人じゃなくてNOVA人かなとか思って、うちの学級はNOVA人も国際人もいないけど、どん兵衛ばかり食べてるソバ人はいるな、とかいろいろ考えていたんですけれども。こういうふうにしゃべると、通訳の人はきょう、どういうふうにショブラー先生とかに伝えているのかな、とちょっと興味がありまして言ってみたくてなんですけれども。きょう午前中からずっとあのように同時通訳をしていただいて我々聞いていたんですけれども、このセッションは私が日本語でしゃべって、逆に通訳の方が英語に直してくださるというふうになってますので、ゆっくりし

ゃべれと、追いつかないから適当に間を置けというふうに言われてますので、途中不自然な間があるかもしれませんが、ゆっくりお話をしたいと思います。このくらいのスピードで大丈夫ですか。あ、グーが出ましたね。だめだと言ったら、「こ・の・ぐ・ら・い・の」って、ゆっくりしゃべろうかと思ったんですけど。

それでは、あまり冗談ばかり言っていると時間がなくなりますので、本題に入っていきたいと思います。

きょう私に与えられたテーマは、「社会自立を目指した自閉症児の教育の実践について」ということで、日本の自閉症の教育を概観して、その中で社会自立のために学校教育がどういう役割を持っているのか話せというような形で言われたんですが、非常に大きなテーマですね。社会自立というものがどういうものを指すのかというのはまず考えていかなければいけないところなんですけど、御承知のとおり自閉症児というのは本当に知的な発達にすごく幅があります。午前中、テンプル・グランディンさんの話とかが出ましたけれども、本当に知的に高い自閉症の方から、とても重い障害を持った自閉症の方までいますので、そういう方が社会自立していくというのが一体どういう状態を指すのかということで、社会自立を目指した学校教育の役割というのは大きく違ってくるんじゃないかなというふうに思います。

### 自閉症児のライフサイクル

それで、まずこのテーマを考えるに当たって、私が見ている自閉症の子ども、それから私の学級

に今まで通ってきた子どもは、学校に入る前にどういふ機関がかかわっていたのか。それから、卒業した後どういふところに進学し、今はどういふ暮らしをしているのかといふことをある程度ちよつとみた上で、その中で学校、その間に学校はどよう役割を持っているのかといふのをちよつと考えてみたいといふふうに思いました。

### <江戸川区におけるモデル>

それで、OHPにちよつといきますけれども、最初の何枚かはちよつと字が小さくて見にくくて申しわけないんですが、江戸川区という限られたところではありますけれども、自閉症の子どもがどよういふところを通っているかといふことについていろいろちよつと書き出してみました（図1参照）。真ん中に年齢が0歳からずっと、ここ80までちよつと切っちゃってますけれども、基本的にこの線の上の部分、ここが学校です。一応学校教育といふことで義務教育といふのを考えて、その9年間を上につけてあります。その中で自閉症の子どもが日本でどよういふところにいるのか、

どよういふところで教育されているのかといふのを書き出してみたんですが、まず一番下に東京で言えば都立、都立養護学校と書いてありますけれども、養護学校小学部、同中等部があります。そよういふところで学んでいる自閉症の子どもは大勢います。それから、区立小学校の心身障害学級とここに書いてありますけれども、いわゆる特殊学級、固定の特殊学級で学んでいる子どもも多くいます。それから中学校にも同じような学級があつて、そこで学んでいる子どもたちがいます。さらに、地域の通常の学級に在籍して、大半はそこで学んでいるんですけども、通級指導教室、通級による指導を受けているといふ子どももいます。それから、中学にも同じ形態があります。さらに、普通の小学校だけで学んでいるといふ自閉症の子どももいます。中学校にも同じことが言えます。私は、この通級指導教室、通級による指導を行っているんですけども、義務教育だけを考えても、自閉症の子どもはこれだけ多様な場面で教育がされています。ですから自閉症の子どもは社会自立

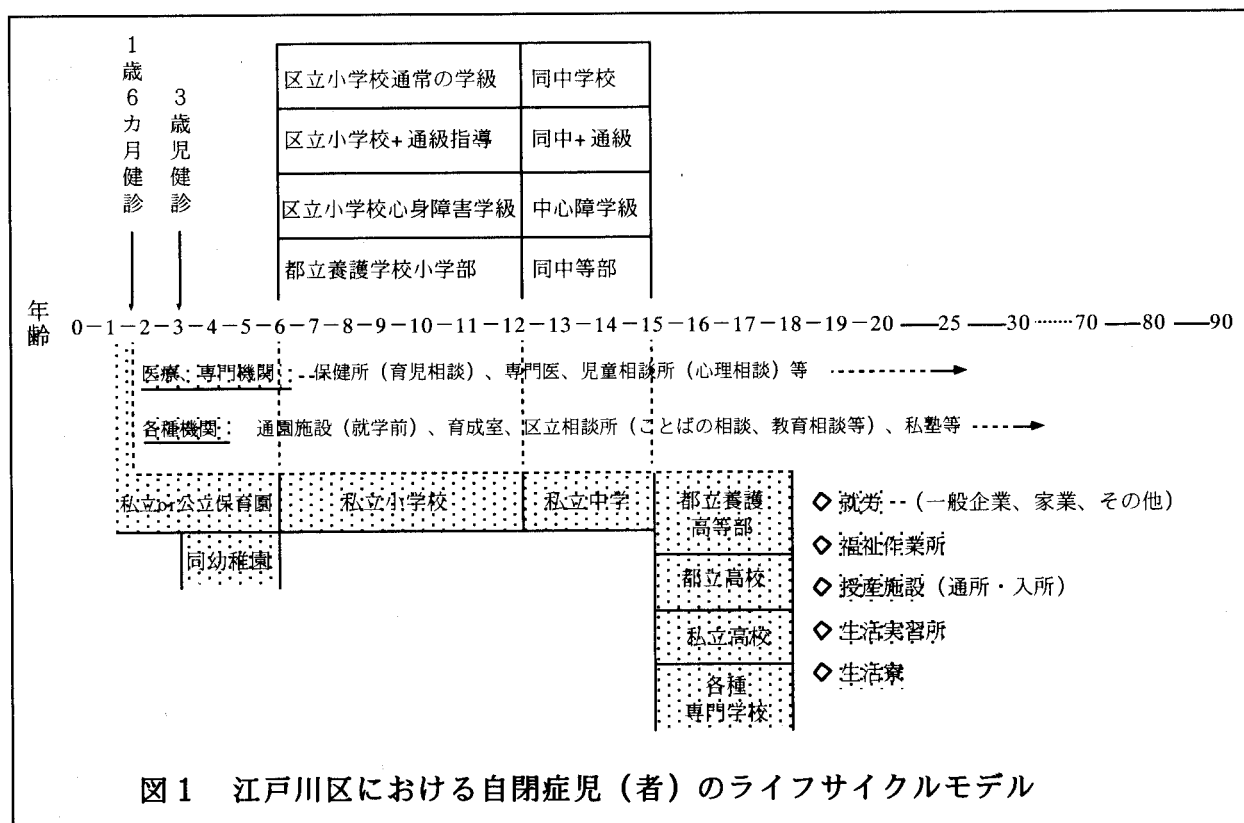


図1 江戸川区における自閉症児(者)のライフサイクルモデル

を目指した学校教育の役割というものを考えていくときに、非常に幅が広いので問題がすごく大きくなるというか、一言では言えないという、ややこしくしている原因がここにあるんじゃないかなという気がしています。

じゃあ学校の前後でどういうところがかかわっているのかというのをちょっと簡単に見てみますけれども、多くの子どもは1歳半健診とか3歳児健診でスクリーニングされてきます。まず、そこで発達の問題を指摘された場合に、多くの子どもは保健所で育児相談を受けたりとか、または専門のお医者さんを紹介されてそこを受診することになります。さらに、そこから児童相談所のようなところに行く場合もありますし、就学前の通園施設みたいなのところに通ったり、江戸川区では育成室というのがあるんですけども、これも就学前の子どもに対して通所で指導しているところなんですけど、こういったさまざまな専門機関を通ることになります。ただ、これはすべてこの下側はすべて保護者の自由なチョイスであって、本人、保護者のニーズがなければ、全くこういうところにかからないで学校に来る子どももいるという現実があります。これらの機関は、就学前の通園施設や育成室みたいなものは、ある程度年齢で就学前の子どもまでという対象をはっきりしているところもありますが、病院や相談所みたいなところは学校と並行して通っていくということも十分あり得るわけです。それ以外の選択として、私立の保育園であるとか幼稚園、それから私立の小学校・中学校、それから義務教育以降は養護学校の高等部とか普通の高校、私立の高校、それから各種の専門学校とかいろいろな選択が子どもによってなされています。

学校を出た後ですけれども、一般的な就労、それから福祉的な就労といえますか、作業所それから授産施設のようなところ、それから生活実習所というようなところもありますし、いろんな生活所で暮らしているような自閉症の方もいらっしゃ

います。

それから、東京都の場合だけではないと思いますが、最近、障害のある子どもに対してのいろいろな私立の塾のようなものかなり数としてふえてきています。こういう機関というのは、学校と並行して子どもが通っていますので、今では連携を考えるとときに無視しては考えられないような世の中になってきてるんじゃないかなというふうに思います。

### <就学前の施設の役割と課題>

それでは、簡単に就学前の施設と卒業後の施設での課題と役割みたいなものを考えてみたいと思います。

#### 就学前施設の役割と課題

1. 身辺自立
2. 遊びによる人関係の基礎作り
3. 母親のケア

先ほどお話しした中で、就学前に子どもが通っている通園施設みたいなものとか、障害児を対象にしているいろいろな施設があるんですが、こういういった施設がまずどういう役割を担っているかという部分を、実際に施設の方にアンケートで調査したり、直接お伺いして聞いてみました。そこでの大きな役割というのは、まずやっぱり身辺自立だというような答えが返ってきました。ただ、いろいろな子どもがいますので、こういった場所というのは遊びが中心であって、生活と遊びの場で、さらに親子で楽しんで関係を築くというようなことを重視しているというようなことが聞かれました。4～5歳になると母子分離ということが必要になってくると思うんですが、そういう中で集団的な遊びの中で友達を意識したりとか、少しずつルールを学んで「人関係の基礎」というふうにここで書いてありますけれども、そういうものを学んでいく。就学前の施設の役割は大きくこの2点ではないかなというふうに思います。

3番目に、母親のケアというふうに書きましたけれども、実は就学前の施設の職員の方にお聞きしたら、ここが一番大事な部分だというふうにおっしゃっていました。お母さんが、障害をまず受け入れることと、これからどういうふうに子どもを育てていったらいいのだろうかという養育面の方向がなかなかまだわからないで悩んでいる時期なので、お母さんをケアするというのが一番大変だというふうにおっしゃっていました。さらに、ここでの問題というのは、自閉症だけではなく、知的なおくれの子、それから脳性麻痺の子とか、本当にいろいろな障害のある子どもを同じところで受け入れるという現状があるので、お母さんにもいろいろなお母さんがいて、その中のケアというのは本当に難しいんだと、それが課題ですというふうに職員の方がおっしゃっていました。

#### <就学後の施設の役割と課題>

それでは、次に卒業後の施設について簡単にお話ししたいと思います。

#### 卒業後の施設の役割と課題

1. 社会的自立のための援助
2. こだわり パニック

ここに出したものは主に養護学校の高等部を卒業した子どもが通っている授産施設ですとか、作業所の方にお聞きしたことです。こういった施設の大きな役割は何ですかという問いに対して一番に返ってきたのは、とにかく社会的自立のための援助なんだと。その中では生活指導であるとか作業指導というものが入ってくるんですが、とにかく仕事を通して社会的に自立していくための援助をするというのが大きな役割だというふうにおっしゃっていました。自閉症の方には、先ほど午前中からのお話で、いろいろな環境を調節して、調整してよりよい適応を促すというお話がありましたけれども、今の日本の現状の中で周りの環境を自閉症の方に合うように変えていくというのはまだ

まだ難しい話であって、こうした施設ではやはり特別な場面を設定しないでも、自閉症の方がうまく適応していけるような援助をしているというのが現実だというふうに聞きました。とにかく、いろいろな人がいる集団生活の中で情緒的に安定して生活していけるような援助を心がけているということです。

ここでの課題なんですけど、2番目に、こだわりとパニックというふうに書きましたけれども、日本ではまだ自閉症の方だけのそういった施設というのはほとんどありませんので、ほかの知的なおくれの方とか、いろいろな方が利用されているわけなんです。そうすると、その中でやっぱり自閉症の人のこだわりですとかパニックというものが、ほかの利用者に与える影響というのは大変大きいそうなんです。結果的に集団で行動していくことが難しいという状況があるようです。この辺が社会の中で仕事をして自立していく中で大きな課題になっていることのあらわれではないかなというふうに思います。

#### 学校教育の役割

さて、今、簡単に学校に入る前の施設と学校を卒業した後の施設の役割と課題というのを見てみたんですが、じゃあこうした中間にある学校教育というのは一体どういう役割なのかというのをぜひ考えていただきたいなというふうに思います。まず、私の学級でやっている実践を御紹介して、問題提起をしてみたいなというふうに思います。

私の学級は通級の指導教室です。基本的には1対1の個別指導というのを大事にしていますが、自閉症の子どもには必ず1対1の個別指導の時間と、子どもが6~7人、多い場面では8人ということもありますが、そのぐらいの人数のグループでの指導というのを並行してやっています。一人ひとりの子どもにつくっている個別の指導計画というものの例をお示ししたいと思います。

個別の指導計画の実例

児童名	〇〇〇〇	学年	2	在籍校	〇〇小学校	通級日	火曜 2, 金曜 5, 計 7 単位時間
-----	------	----	---	-----	-------	-----	----------------------

障害の状態（障害名、程度など）

自閉症[アスペルガー症候群] (Q)

言語発達診断検査(田研) [CA7:06] 語彙年齢  
WISC-R [9] IQ VIQ PIQ

児童の実態

項目	現在の状態像	指導課題となる事柄	指導場面
基本的生活習慣	身辺処理についてはほぼ自立しているが、気持ちにむらがあり着替え等を拒否することもある。	いつも指示に従って時間内に着替えを終える。	小集団指導
学習態勢	基本的な学習態勢が身に付いていない。落ち着いて座っていることが苦手。手で足をゆすったりいつも体の一部を動かしている。姿勢も崩れがち。	学習に関係のないことはしゃべらずに、不必要に体を動かさずに集中して学習する。	個別指導 (小集団指導)
認知・言語の発達	基本的な概念について理解があるが格助詞の使い方や言語表現力に乏しいため会話が難しい。	格助詞等を正しく使って文を作る。数の基礎的な概念を身に付ける。	個別指導
運動機能	注視が苦手なので運動模倣は全般的に苦手である。特に協応動作が難しい。用具の使い方もぎこちない。	指示に従ってよく見て模倣して運動する。ボールや縄などの操作に慣れる。	小集団指導 「運動」他
対人関係・社会性	行動を規制されることを極端に嫌がり常に自分中心で行動したいため協調性がない。	指導者との信頼関係を築き指示に従って学習する。	個別指導 小集団指導
情緒の発達 情緒面の安置	新しい事、見通しのもてない事に極端に不安を示し、頑固に拒否したりわざと屈折した行動をとる。	様々な活動を体験し、見通しをもって安心して学習する。	小集団指導のすべての活動
集団参加	まわりの友達、大人の行動には関心が向かず、自分中心に行動しているため集団参加できない。	小集団で皆を同じ活動を行い、集団での学習の仕方学ぶ	小集団指導
基礎学力	学習に対する苦手意識が強く拒否するため基礎的な学習が遅れている。	国語、算数の基礎的な学習を進める。	個別指導
その他			

保護者の要望や期待

- ・ 先生の指示を聞いて皆と一緒に学習に参加してほしい。
- ・ 友達との関わり方を知って、一緒に遊んだり仲良くなってほしい。

指導目標

期間	指導目標（指導の重点）	評価
長期 1年間	・ 語彙を増やし、言語表現力を豊にする。 ・ 状況の認知能力を高め情緒的に安定して過ごせるようにする。	
1学期	・ 自分の思い(「～したい、～いや」など)を素直に言葉で表現できるようにする。 ・ 指示にしたがって素直に行動できるようにする。	要求表現が豊になり少し困難な課題にも取り組めるようになってきた。
2学期	・ 小集団の場面でも不安なくいろいろな表現ができる。 ・ 目標や目当てを意識して自分の行動をコントロールする。	困難な課題に対して二度目からは自分で取り組もうとする態度が育ってきた。
3学期	・ 要求や思いを表現したり、教師と会話を楽しむ。 ・ 困難な課題にも意欲的に取り組めるようにする。	

表 1 個別の指導計画

### <個別の指導計画の例>

ちょっとこれも文字が小さくて申しわけないんですが、A4、1枚の紙におさめるようにしています(表1)。

今、日本でも個別の指導計画ということがかなり話題になり、いろいろなところでつくられていますけれども、中には一人の子どもについて10枚も20枚も個別の指導計画を書くという話を聞いたことがありますけれども、なかなかそれだけのものを書くというのは大変な作業でうちの学級ではこの1枚の形にうまく簡潔におさめられるように工夫しています。

### <個別の指導計画作成の考え方>

まず基本的に、この個別の指導計画を作成するときの考え方なんですが、まずはその自閉症の障害の特性を十分理解した上で、一人ひとりの子どもの障害の状態とか発達段階を的確に把握することが必要です。それを把握して、そういった障害に基づいていろいろな困難を改善するために必要な知識とか、技能とか態度、それから習慣を養っていけるような指導事項というのを選択しています。

シヨブラー先生の午前中の話で、療育によって子どもがよりよく適応できるようにするのが大きな目的だ、その一言に尽きるんだというお話がありました。私がこういった指導計画をつくるときに大きな視点というのは、この子どもが今より暮らしやすくなるためには何を獲得したらいいか、何を与えればいいのか、何を学ばせればいいのか、ここを大きなポイントにしています。

それは子どもによってまちまちです。自分の気持ちを言葉でうまく伝えることができなくて、しょっちゅうパニックを起こしている子どもには、そういう能力を身につけることによってパニックが減って暮らしやすくなるのではないかと、子どもによって今いる状態でいろいろな困難があるんだけど、それをちょっとでも変えてあげられて、暮らしやすくなるために何を教えてあげるかというのをポイントにしています。

### <実態把握>

今、ここに項目が左側にあるんですけども、ちょっと見えにくいので一つずつ読みますけれども、一番上は基本的な生活習慣というふうにしています。次が学習態勢、それから次が認知・言語の発達、それから運動機能、次が対人関係とか社会性の問題、それからここが情緒の発達、情緒面の安定の度合いといいますか、その辺。それから集団の参加の様子、それから基礎的な学力。これらの項目についてですね、子どもの現在の状態像をポイントをとらえて簡潔にここに記すようにしています。

#### 実態の把握

1. 保護者からの聞き取り
2. 行動観察
3. 各種検査等の活用

これらの項目の実態をどういうふうにとらえるかといいますと、まず一つは保護者からの聞き取りであります。入級段階でお母さんから細かな生育歴ですとか、今現在の生活習慣の自立の状態のようなものをゆっくり時間をかけて聞き取るようにしています。それから言葉・言語の理解力であるとか、表現力であるとか、数とかそういった基礎的な概念の形成の程度であるとか、あとは運動機能上の問題があるかないか、それから人関係の理解の程度みたいなものは意図的な場面を設定して観察、行動を観察したりすることと、あとは学校などに行って自由な場面で観察をしたりして、できるだけ多くの情報を集めるようにしています。

それからもう1点、ここにいろいろな検査のことが書いてありますけれども、認知・言語面の発達段階ですとか、個人の能力のプロフィールなどを客観的に評価するために、WISC III ですとか、K-ABC それから ITPA などの検査を実施することもあります。

### <指導課題と指導場面>

そうやって把握した現在の子どもの状態に応じて、基本的な生活習慣でしたら例えばどういうことが課題になるのか、それから学習体制でしたらどういうことがこの子の課題なのかということをごここに書き出すようにしています。その課題をどういう場面で指導するのかということをごここで選んでいます。

例えば学習体制のようなものは1対1の個別指導の中できちっと学習する習慣をつけていくような指導をするとか、認知的なものとか言語的な発達については1対1の個別指導の中で押さえていくとか、また人関係、対人関係や社会性の問題の改善については小さな集団の中でやるんだと、そういう指導場面をそれぞれの項目について設定しています。

### <指導目標>

それでは次に、指導目標をそれに応じて設定していくわけですが、指導の目標は短期的な目標と長期的な目標を考えています。

#### 指導目標の設定

1. 短期的な目標
2. 長期的な目標

基本的に短期的な目標というのは、学校で言えば1学期間ぐらいを考えています。ですから3カ月か4カ月ぐらいということですが、この短期的な目標については、なるべく具体的で全体の指導、段階的で系統的な指導の中でこの目標がはっきり位置づけができるもの、なるべく具体的なものを設定するようにしています。

長期的な目標というのは、1番の短期的な目標を集約して、この子の将来的な見通しがあらわれるもの、見通しがはっきりしているものを長期的な目標として掲げるようにしています。こうやって指導目標を設定した上で、今度は指導の内容を選択していくことになります。個別の指導計画のもとにどういった内容を構成していくかというの

が学校の教育の一番大きなポイントではないかなというふうに思っています。

### <指導内容の年間計画>

これもちょっと小さくて申しわけないんですが、同じ子どもの指導の内容を1学期から2学期、3学期まで、1年間でどんなことを学習するのかというのをここに書いてあります(表2)。表の上の部分は1対1の個別指導で行う部分です。ここには学習体制の確立ですとか、言葉の基礎的な概念の理解だとか書いてありますけども、じゃあ言葉の例えば基礎的な概念、理解であれば1学期にどんなことを個別でやるのか。ここで名詞の仲間分けとか仲間外れ探しとか、理由の説明とかいろいろ書いてありますけども、具体的にやることをここに構成していくというふうになっています。下の段は、先ほど申し上げたグループの指導の内容を記してあります。グループの指導には大きく、例えば朝の会であるとか造形遊びだとか運動とか、そういう大きく行う大体の内容が書いてあって、その中でこの子どもが何を学ぶかというのがここに書いてあります。

こうした指導内容の構成とか指導の形態を選択するという部分が学校における自閉児の教育の中で一番重要な部分だというふうに考えています。個に応じて指導計画を作成するわけですが、個を、きわめて個に応じた対応をしていくと、おのずと1対1の指導というものがすごく大事になっていくんですが、学校の一番大きな役割というのは、同じぐらいの年齢、それから同じぐらいの発達段階の子どもで、集団行動であるとか社会性が学べるということだというふうに考えています。ですから、そういったグループの指導というものを先ほど示した個別の指導計画の中で、どういふふう位置づけていくというのが一番大事なことだというふうに思います。特にその自閉症の子どもにとって、人のかかわりみたいなものというのは学校でないとなかなか学べない部分があります。そういったものを経験したり学習する、意図

指導内容・年間計画表 (平成 年度)

児童名 ○○○○	個別担当者	○○○	1学期			2学期			3学期			方法・配慮事項等
指導場面	指導目標	1学期	2学期	3学期	2学期	3学期	2学期	3学期	2学期	3学期	方法・配慮事項等	
個別指導 1:1 個別指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習態勢の確立</li> <li>ことばの基礎的 概念・理解</li> <li>漢字の学習</li> <li>場面の状況理解</li> <li>視覚認知～数</li> </ul>	着座姿勢 (よい姿勢で学習する) -----	(集中し、足をしっかり床につける -----)	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	自ら意識させる ゆっくり書く習慣をつける	
		丁寧な文字を書く (ゆっくりかく) -----	行動のコントロール -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	プリント、ワークシート、 写真、絵等
		名詞の仲間分け・仲間はずれ探し 理由の説明・類似点の説明 -----	「連想・類推」「何ですか (概念)」 助詞の穴うめ、時を表す助詞 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	プリント・パソコンソフト
		漢字の読み書き (1年～2年) -----	漢字の読み書き (1年～2年) -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	※在籍校との連携課題 プリント問題
教師とのごっこ遊び -----	かけ算九九 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	※在籍校との連携課題 プリント問題		
ベグさし・数の大小比較 -----	お金の学習 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	個人写真・名前プレート等 ワークシート		
名前・返事・役割交代 -----	休み時間の遊び -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	文型パターンのヒント		
今日の給食の献立 (複写) -----	(聞き取り書き) -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	月ごとの歌、歌遊び 個別のワークシート		
今日の予定の相談 -----	(読む・見通しをもつ) -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	粉状粘土・たらい・ビニールシート 他		
(読む・見通しをもつ) -----	(質問に答える) -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	小割・のこぎり・万能塗料 他		
歌、歌遊び (模倣、リズム打ち) -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	色画用紙・シール 他		
歌、歌遊び (模倣、リズム打ち) -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	声かけ、意識		
暦、天気 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
全体への指示の理解、傾聴 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
集団参加、友達 の行動の意識 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
道具の使い方 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
注視、模倣 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
基本の運動 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
基本の運動模倣 (細かい部分まで正確に模倣する) -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
歩・走・跳の運動 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
(ケンパ・走る・よじ登る・飛び 降りる・おら下がる・ひつばる)	(行進・前転・走・飛び越し・横 移動・おら下がり・飛び下り等)	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	事前の意識づけ	
おしほり・ふきんを濯ぐ、絞る -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
身支度、衛生 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
その他 -----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		
対人関係 (自由 遊び)	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----		

表2 年間計画表



的な場面で学習するというのは学校でしかできないという部分が多いと思います。その部分が学校教育の一番大事な役割ではないかなというふうに思っています。

## 指導の実際

### <教室の実例>

さて、あまり時間がなくなってきましたので、今度はスライドです。具体的にどんな教材をつくっているかとか、どんな教室で実践をしているかというのをちょっとお話ししたいと思います。私の教室は、TEACCH の考え、TEACCH プログラムで指導しているというふうには言えないんですが、TEACCH の考え、きょうずっとお話があった構造化という考え方は、かなり取り入れて実践をしています。そうした例をきょうスライドでお見せして具体的にお話ししたいと思います。

まず、これは私の学級の教室なんですけども、これはブレイルームで、これ裏表逆ですけども我慢しましょう。ほか大丈夫かな、文字が逆になっていると…次のスライドをちょっとお願いします。これも逆ですけども、ちょっと不吉な予感がしますね。文字が逆に写ったら全部取りかえてもらわなきゃいけないんですが、これが普通、子どもたちが学習している学習室というふうに呼んでいますけれども、こういった円形の机を組み合わせて、集団の学習などをしています。ただ、うちの学級は通級の学級ですので、子どもが毎日入れかわり立ちかわり違う子どもが来ますので、その日のグループによって机を例えばもうとっちゃって、いすだけにしたりとか、いろいろな形で場所を工夫して使っています。

### <予定表>

次のスライドをお願いします。ああ、よかった。文字がちゃんとしていますね。これは、まず壁にいっぱい日めくりカレンダーがあるんですけども、子どもが来たらその日に数字を合わせるようにし

ています。自分の名前が書いた日めくりがあって、必ず来たらその日の暦に直すというふうにあります。ここにちょっと木曜グループ、月曜グループのスケジュールが書いてあるんですけども、月曜日のグループは3～4年生のグループで、木曜日のグループは5～6年生のグループで構成しているんですけども、大体毎週やる日程、スケジュールをこのように工程しています。先ほどエッケンロード先生の話にもありましたけども、この中でいろいろ細かな変更であるとか、中身の中でいろいろ変えて柔軟性を持てるような指導もしています。

子どもたちは、まず来ると必ずその来た日のシールを表に、表と自分のノートに張るという学習をします。この一連の作業をどういうふうに構造化しているかということをお話ししますが、まずここにカレンダーがあって、きょうは1月21日ですという日めくりがあります。この大きい日めくりカレンダーは教師がめくってその日の日程にしておきます。ですから、子どもはこの数字を見て、ああきょうは1月21日なんだというふうに理解して、先ほどの自分の日めくりカレンダーを21日の数字に直すようにします。次に、ここに表が張ってあります。1月ってここに書いてあるんですけども、ちょっとここに隠してあるところに実は子どもの名前が書いてあります。自分の名前のところを探して、さらにここの数字で21日のところを探して、二次元の表になっているんですが、それが交差したところに自分が来た印のシールを張るというふうにしています。この手前にあるのが個人のノートです。

個人のノートにはこういうふうにかレンダー式で1月のカレンダーがあって、その中から21という数字を見つけ出せば自分がシールを張る場所がわかるようになっています。さらに、先ほどの一覧表とこのノートの色が同じになっていて、数字が読めなくてもカラーをマッチングさせればこのページを見つけ出せるというふうになっていま

す。

次のスライドをお願いします。このノートは個人で持っているんですけども、4月から月ごとにこういう違う色にされていて、先ほど壁に張ってあった一覧表もこれと同じ色になっています。こうした色の手がかかりで、文字が読めなくても自分が張る場所が見つけられて、だんだんその暦というのが理解していけるようになります。

#### <視覚的に提示>

これは壁の掲示の工夫ですけども、じゃんけんがなかなか理解できないので、こうした視覚的にグーとチョキと、こっちが勝ちでこちらは負けなんだよという表をいつでも掲示して見られるようにして理解を促しています。一応勝ちの方は青にして、こちらは白と、色分けをして少し区別ができるような工夫がされています。

これはただ数字が書いてあるんですが、1、2、3、4、5、6、7で、ここにタコの絵が書いてあって8と書いてあって、9があって、イカの絵が書いてあって10なんですが、これはタコ8イカ10というゲームがあるんですが、順番に「1、2、3、4」と言っていて、8のときは「タコ8」と言わなきゃいけないで、10のときは「イカ10」というふうに言わなきゃいけないゲームなんですが、それをやるときに最初にこういうものを見せて、8のときは必ずタコをつけて「タコ8」と言うんだよっていうような、視覚的な手がかかりとしてこういうものを日常的に使っているという例です。

ちょっとピントが甘いですが、これは予定を固定している例なんですけども、全く同じものを二つつくっています。これはなぜかといいますと、小さい1~2年生の自閉症のグループで、8人のグループで今学習しているんですが、最初の段階で8人いっぺんに、というのは指導者側も子どももやっぱり刺激が大き過ぎて、多過ぎて、なかなか適応が難しかったものですから、4名ずつ分けて指導を始めようということで、こういう予定をつく

りました。教室の中の違う場所で4名の子どもと2名の教員、4名の子どもに2名の教員という二つのグループで全く同じものを使って予定を説明して学習を進めていったという例です。ある程度の3カ月ぐらいの期間を経た後に8名全員で学習する形態に変えたのですが、そのときに全く同じこのボードを使うだけで子どもはやっぱり見通しが持てて、安心感があってすんなりと8名でも学習を進めることができたという例があります。

#### <絵の活用>

一つ一つの活動に、ちょっと見にくいですけども、必ず絵が添えてあります。給食だったら給食を配っているところの絵ですか。そういう絵のヒントを必ず加えて、色も色分けして視覚的に構造化しているという例です。

これは、同じように掃除のやり方というので、掃除をするときに使っている例ですけども、必ず絵を加えてあって、いすならいすの絵、机なら机の絵、運ぶなら運んでいる絵、そういうものを必ず付加してヒントを与えていると。これはちょっと課題的に進んだ段階で、いすを運ぶという動作をあらゆる言葉とマッチングさせるために切り離れた課題になってますけども、これ以前にはこれがくっついていて、まず順番にこう手順を並べたり考えるという学習にも使っていました。これはこういう必ず絵を付加しているという例でちょっとお見せしました。

これも皆さん実践の中でよく使われているようなことだと思いますけども、これはシャボン玉の液をつくるときに、子どもにつくらせるときに絵で示して、どういうふうな手順でやるかというのを示した例です。

これはちょっと見にくいので簡単に説明しますが、ミュージックベルで子どもたちが合奏するとき独自で譜面をつくって、ベルに色分けしてどこで振るかというのを色分けしてつくった楽譜の例です。これも視覚的な構造化というふうに言えるのではないのでしょうか。

これも子どもが、きのうやったことを発表するときパターン化してヒントみたいなボードです。ここに自分の写真を入れて、これ全部ポケットみたいになって入れられるようになっているんですけども、きのう僕はどこどこで何々をしました。このカードも全部取りかえられるようになっていて、いろいろなパターンに置きかえて、そういった発表の仕方みたいなものを学習するときに使います。

#### <校外活動>

これは、校外に学習に出かけるときに、よく使うしおりみたいなものです。これは子どもと事前に行く前に、どういうところに行ってどういう順番で行くのかというのを勉強しながらつくらせた例なんですけども、乗り物だったらどういう乗り物に乗るのかというのを実際のプリクラみたいなシールなんですけどもね、それで張らせて、それであとどういう駅を通過して、どういう経路で行くかというのを、なかなか文字を書くのにすごく抵抗があったり、それだけすごく時間がかかってしまう子どもたちなので、こういうシール、文字のシールを事前に用意しておいて、それから選んで張るといようなことで、こういった流れを理解させるように使いました。

同じように校外に行くときに、こういう経路図をつくらせて、藤の木学級からまず葛西の駅まで行きます。そのときに都営バスに乗って、そこでいくらかかります。そこから地下鉄に乗って日本橋まで行って、日本橋で乗りかえて渋谷まで行くんですけど、何線に乗って何線に乗って、どういう経路で行ってそこまでいくらかかるんだという、そういうお金の利用も含めた勉強に使った例です。これもやっぱり文字を書いたりすることだけでなく抵抗のある子どもは、やっぱりシールのような形にすれば作業の時間も短くなりますし、学習に興味を持って取り組めるというような例です。

そういった学習をする際に、世の中に出回っているこのようなメトロネットワーク、これ東京の

地下鉄のネットワークですけども、確かに色分けされてある程度わかりやすくなっていますが、この中で自分の乗る電車を選択するというのも大変な作業で、子どもの能力に合わせて、行く目的地に合わせて、独自でこういう必要な路線だけを抜き書きした路線図みたいなものもつくって学習するときに使っています。

あと、同じようにお金の勉強するときに、これは一之江という駅があるんですけども、その駅にある実際の運賃表です。実際に子どもがそこに行ったときに、この運賃表を見て自分が行く目的地がいくらかというのを探さなきゃいけないんですけども、通る駅の運賃表を事前に写真で撮っておいて、これカラーコピーで拡大しているんですけども、資料みたいな形で子どもに与えて事前の勉強に実際のものを見ながら勉強するという、そういう形で使います。

これがその校外学習に行ったときのカードですね。順番にこういうカードにして持って行って、順番にその場所で見ればわかるようなヒントがいろいろ盛り込まれています。例えば、学校から出て最初にバスに乗るんですけども、バス停でここ、行き先のどこどこ行って書いてあって番号とか書いてあるんですけど、このバスが来るまで待つと。で、このバスは都営のバスという。そのバスに乗るにはいくらかかるんだというのはこのカードの裏にあるんですけども、乗ったらこういう料金箱があって、ここの矢印のところにお金を入れるんだと。例えばそのバスを降りたら、次はこの京葉線というのに乗って、京葉線の切符の販売機はこういうもので、お金をどこに入れてこのボタンを押してというものが、その場所と同じものでヒントになっていて、カードで持ち歩くというふうになっています。

先ほどのカードの裏側なんですけども、最初のバスに乗っておられるところは葛西臨海公園の駅だと。そこまでは100円なんだと。100円というのは、これ実際の100円硬貨の写真を切り抜

いたものなんですけども、これを財布の中から見つけ出して先ほどのあの入れるところに入れればいい。70円だったら50円玉と10円玉2枚というふうな、これを見ながら財布から出すと、こういうものを事前に行く前にゆっくり時間をかけて学習して、当日は本人がそれを見ながら、なるべく先生の力をかりないで自分で電車に乗って出かけるというような学習に使われました。

今のをまとめて、こういう一つの外に出かけるために、これだけいろいろなものを工夫してやりましたという例です。

#### <教室内の工夫（物理的構造化）>

今度はちょっと教材じゃなくて、教室のいろいろな掲示とかそれをどういうふうに工夫しているかと、これはちょっと棚が横になってますけども、こういうボックス型の中にいろいろなものを整理してありますが、ここにその名前が字で書いてあります。字がわからない子には、中に入っているものの写真がここに全部張ってあって、この写真を見れば中にあるものがわかって取り出して遊べるというような、そういうような表示の工夫です。

これは、エッケンロード先生の話にもありましたけども、物理的にいろいろな場所を構造化するという一つの例ですけども、うちの学級は先ほど申し上げたように通級でいろいろな子どもが入れかわり立ちかわり来ますので、いつも固定してその子の場所みたいなものをつくるのがなかなかできません。ですから、その曜日、その子が来るときによってこういったイスを、いすや机を持ってきて、こういうパーティションみたいなものちょっと置いて、ちょっと個別の学習ができるスペースをつくる、こういうような工夫をしています。

それから、こういったキャレルデスクみたいなものも使って、あまり周りの刺激にとらわれないうで集中できるような場所をいろいろつくっています。

それから、こういった衝立みたいなものを先ほどの学習室の机の上に置いて、学習する場所を構

造化してつくっているという、こういういろいろな工夫をしながらやっているという絵です。

じゃあ、スライドありがとうございました。

もうちょっと時間がなくなってしまいましたので、最後に何点かまとめてお話ししたいと思います。

#### <親への支援>

一つその要綱に書いてあった中で、親や養育園、養育者への援助というふうな項立てを一つ書きましたけども、うちの学級では親に対して定期的に面接をしています。どの親にも月1回は必ずとるようにしていますけども、必要な場合は月2回という親もいます。これはもう本当に面接というよりも、ほとんどカウンセリングという意味合いが強いです。就学前の施設の大きな役割の中で親への援助、母親のケアというような話がありましたけども、小学校段階に入ってもまだまだその障害がある子どもを持つ親の苦しみとか悩みというのは大きくて、それをこう理解してあげて支えていくというのは、もう我々教師の本当に大事な仕事だというふうに思っています。子どもの指導がもちろん本業なのですが、こうした自閉症なり障害がある子どものための学級の教師というのは、子どもの指導と同じような配分で親を支えるというような仕事というのは大事な役割であろうというふうに考えています。

#### 関係機関との連携

それでは最後に、関係機関との連携について、もうちょっと時間が来てしまいましたので簡単にお話ししたいと思います。連携のポイントは、そこにも書いてありましたけども、大きく分けて私は二つではないかなというふうに考えています。

#### <日常的な交流>

まず、いろいろな機関との日常的な交流のためには何をしなきゃいけないのか、というのをもう一度見直したいなというふうに思っていて、こう

いうふうに書きました。

## 関係機関との連携のポイント

### A 日常的な交流

1. 何処に何があるか
2. どんな人がどんな事をやっているか
3. ネットワーク作り

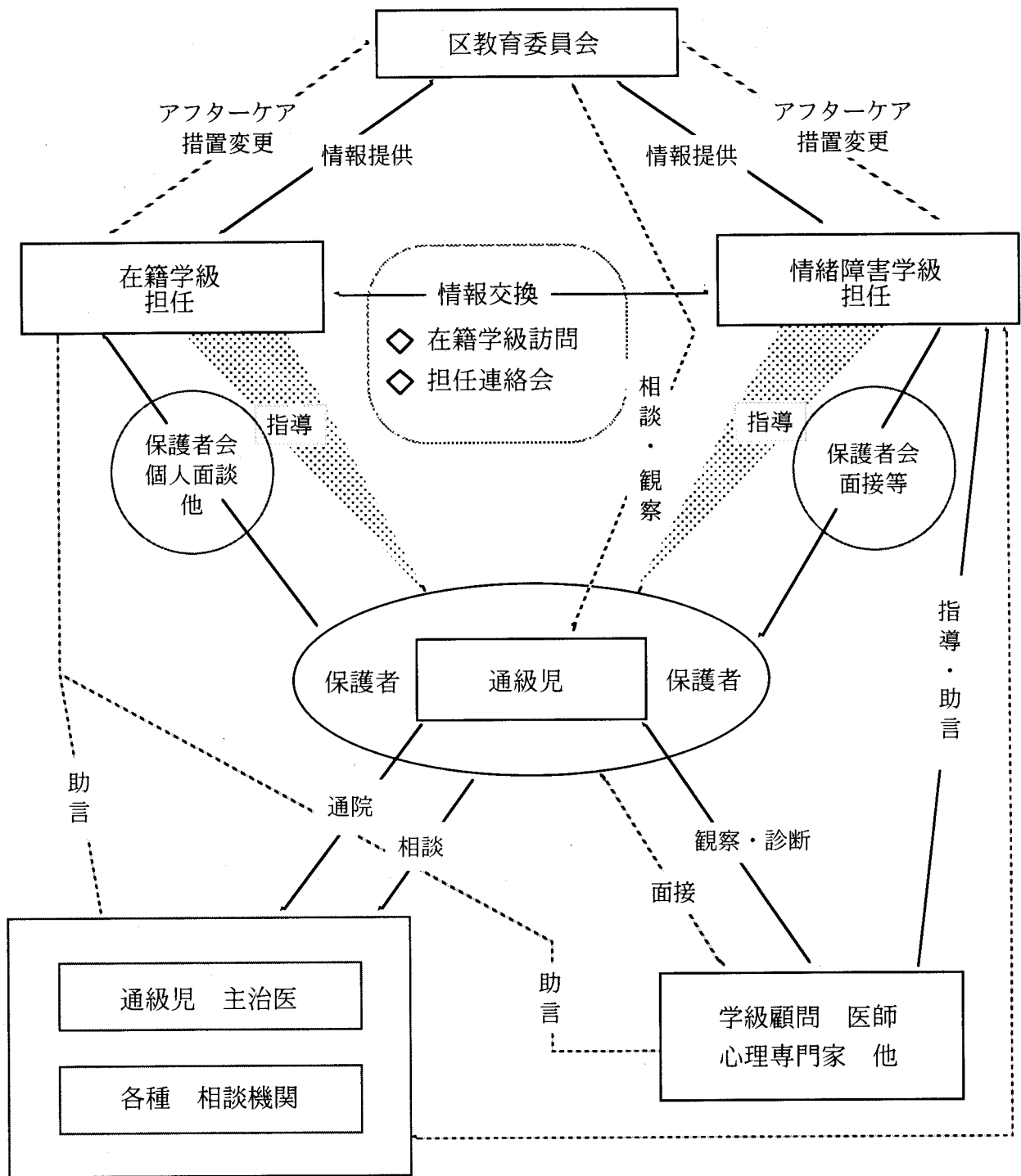
まず、どこに何があるか、お互いに知ることがまず大事だというふうに思います。私の立場でしたら、学校というところを中心にして地域の中でそういう障害児を見てくれるような医療機関がどこにあるのか、それから相談機関がどこにあるのか、それから先ほどお話ししたような私立の塾みたいなものとか、さまざまな機関があるんですけども、それがどこにあって、どんな種類のものがあって、何を目的にやっているのかというあたりをまずお互いに知ることが大事じゃないかなというふうに思っています。地域のお医者さんとちょっとお話しする機会がこの前あったんですけども、お医者さんの方は自分が勤めている地域、かかわっている子どもが住んでいる地域の中でどこにその特殊学級があって、何をやっているのかということはなかなか御存じない方が多くて、まずそういった部分でお互いに知ることが一番大事なんじゃないかなというふうに思っています。それからさらに進んで、じゃあそこにはどんな人、どんな先生、どんなお医者さんがいて、ふだん一体どんなことをやっているのかというのをやっぱり知っておく必要があるんじゃないかなというふうに思います。我々は割合いろいろな施設見学という形で出かけて行って医療機関なんかを見学することがあるんですが、お医者さんの方から学校を見せてくれといって授業を見に来られたということはほとんどありませんので、ぜひお医者さんも忙しいとは思いますが、そういった連携の意味ではお互いに歩み寄ることが必要なんじゃないか

なというふうに思います。さらにそれが進んで、やっぱり地域の中でお互いを紹介し合えるとか、役割を意識して、本当によりよい連携がとれるようなネットワークをつくるのが大事じゃないかなというふうに思っています。

### <一人と中心とした連携>

もう1点の連携なんですけれども、もう一つの連携のポイントというのは、やっぱり一人の子ども、一人の人を中心にした連携ではないかなというふうに思います。これについては、うちの学級に来ている例えば子どもがいろいろなお医者さんにかかっていたらそこに行って、そのお医者さんとディスカッションしたり、また相談機関に行っていたらそこでやっていることを聞きに行ったりということで、その一人の子どもについてまず共通理解を得るということが一応一番大事なポイントじゃないかなというふうに思います。それから親も含めて、家庭、学校、それから医療機関、塾のようなものが、それぞれその子どもにとってどんな役割を持っているのかということをお話し合う中で明確化することがとても大事ではないかなというふうに思います。さらに、一人の子どもの成長にとってかかわっていく人間が、どういう方針でその子どもを育てていくかという部分において統一できたら一番望ましいのではないかなというふうに思います。

限られた時間でなかなか言いたいことがちょっとお話し尽くせなかったんですが、またあしたパネルディスカッションもありますので、言い足りなかったことをお話しできる時間があるかと思います。本当にまとまらない話で、なかなか参考になったかどうかわからないんですが、きょう、あす、2日間の大きなテーマを考える材料を提供させていただいたということでお許し願えればなというふうに思います。どうも御静聴ありがとうございました。(拍手)



----- は必要に応じて行われる

————— は定期的に行われる

図3 指導の連携モデル